



いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。  
JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に  
少しでも役に立つ情報をお届けさせていただきます。

## JA津安芸管内H28年飼料米あきだわら栽培を振り返って 目指せ！反収675kg！！（三重県中勢地区 H28標準反収525kg+150kg）

JA津安芸管内で作付された平成28年産飼料米あきだわら栽培を振り返って

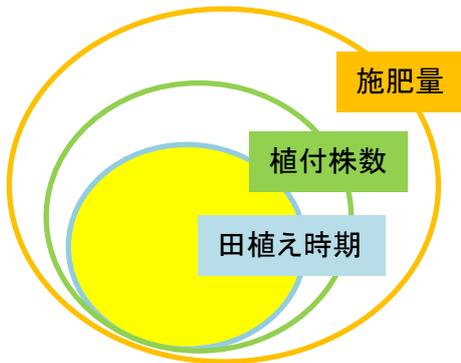
平成28年産飼料米あきだわらの反収は、平均およそ10俵超え！！

飼料米あきだわらを作付するにあたって、収穫量が重要になります。昨年の収穫量を平均するとおよそ10俵を超える結果になりました。収穫量が多かった方については、11俵から12俵の収穫量になり、少なかった方で9俵前後の収穫量になっていました。施肥量や植付け株数・栽培時期によって収穫量に違いがあるように感じました。

飼料米の交付単価は、標準反収値を基準にして収穫量プラス150kg～マイナス150kgの間で交付金額が決定します。収穫量が増えれば交付金額が増え、収穫量が減ると交付金額が減ってしまいます。そのため、三重県中勢地域の標準反収より多く収穫量を目指す必要があります。

収穫量UPには、多肥栽培・

50株以上・栽培期間が重要です！！



### 3つの栽培ポイント

- 多肥栽培  
窒素施肥量10kg～12kg／10a
- 50株／坪以上の植付株数
- 5月中の田植え

#### ① 施肥量の違い

窒素量10kg以上と10kg未満で比較すると、平均して収穫量が0.7俵の差がありました。一穂粒数が多くなる品種のため、幼穂形成期に追肥をすると収量が増えています。

#### ② 植付け株数の違い

10aあたり37株～60株と幅広く田植えされています。11俵以上の収穫量があった方は、最低でも50株～60株で田植えを行っていて、植付け株数によって収穫量に影響することが分かりました。50株以下の疎植栽培では、施肥量を増やしても増収になりにくい結果になっています。

#### ③ 田植え時期の違い

麦収穫後、6月以降の田植えと比較すると4月・5月の田植えの方が収量が安定しています。

収量UPに繋がる！！

目標反収  
675kgを目指して！

#### 注意点

- ・いもち病が発生しやすい品種です。いもち病予防の箱施用剤を使用するなど防除は必須です。
- ・みえのゆめに近い栽培期間が必要になります。遅くまで水が入る圃場を確保する必要があります。